

宮田直彦のエリオット波動レポート

マーケット見通し(短期アップデート) 10 月 22 日 11:34 AM 更新

[日経平均]

【当面の想定レンジ】 34,000～40,250 円

[NY ダウ]

【当面の想定レンジ】 41,600～43,500 ドル

[ナスダック]

【当面の想定レンジ】 16,900～18,700

[米ドル/円]

【当面の想定レンジ】 137.000～152.000 円

[ドルインデックス(ドル指数)]

【当面の想定レンジ】 99.578～104.087

エリオット波動とは

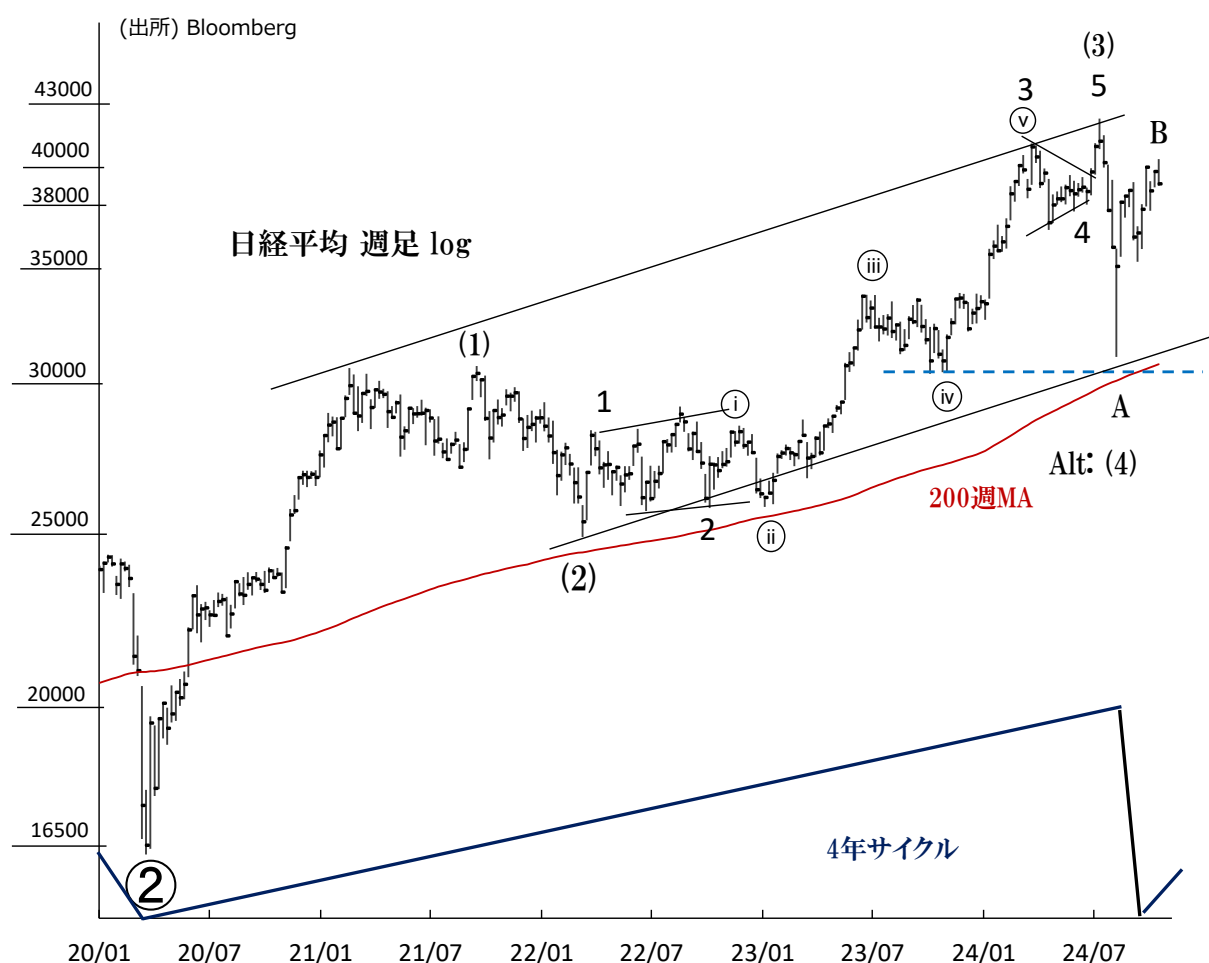
株式・為替動向を予想する心強いテクニカル手法

米国人ラルフ・ネルソン・エリオットが提唱した、今後の株式や為替など市場価格の動向を予想する手法です。相場は5つの上昇波と3つの下降波（合計8つの波）で一つの周期を作るパターンに従って展開するとされます。

このパターンは集団心理によるもので、数分から数十年といった様々な時間軸において観察されます。

フィボナッチ数列、黄金分割比率をチャート分析に初めて導入したのもエリオットです。

日経平均



【週足 エリオット波動分析】

42,426 円(7/11 高値)以来の第(4)波(インターミディエイト級)中 A 波は、31,156 円(8/5 安値)を以て終わったとみられます。それは 20 年 3 月以来の 4 年サイクル底に相当します。

中長期タームでの強気見通しは変わりません。来年の日経平均は、第(5)波の上昇によって 42,426 円を上抜き最高値を更新する可能性が高い、とみています。日経平均予想 EPS が初めて一時 2500 円台に増えるなど、好調な企業業績は続いており、4 万 5000 円も十分射程内にあります。

第(5)波上昇はいつまで続くでしょうか？

今月のマンスリー(10/3 発行)で書いたように、それは最短で 2025 年 2 月、最長 2026 年 12 月までであり、特に 2025 年末頃までを、第(5)波による上昇期間として注目しています。



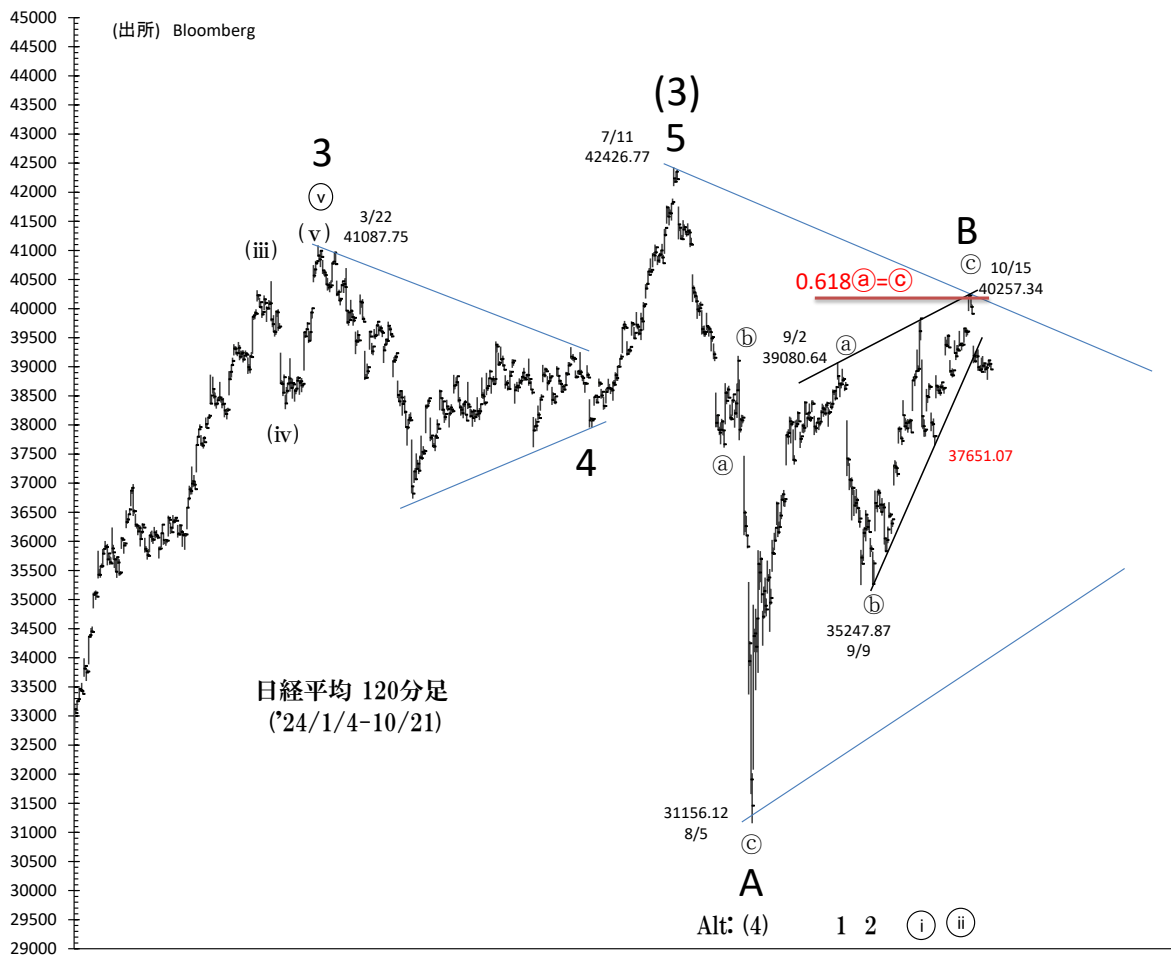
【日足 エリオット波動分析】

足元、日経平均予想 EPS は 2500 円付近にあります(10 月 15 日は 2514 円と最高水準を更新しています)。EPS2500 円・PER18 倍から得られる 4 万 5000 円という水準は、25 年の日経平均ターゲット候補として要注目です。

もっとも、31,156 円(8/5 安値)から続いていた、第(4)波中 B 波によるリバウンドは、40,257 円(10/15 高値)を以て終了したとみられます。10 月 15 日のローソク足『流星』と、翌 16 日のギャップダウンによって生じた『アイランド・リバーサル』は、トレンド下方転換を強く暗示するものです。

ちなみに時価総額上位銘柄で構成される TOPIX コア 30 が、8 月以降の戻り高値を付けたのは 9 月 3 日であり、日経平均より 1 カ月以上も前です。このようなコア 30 と日経平均の『未確認』は、主力株への売り圧力の強さ、相場全般の潜在的弱さを示唆するものです。

日経平均は 40,257 円を起点に C 波の下落局面が進行中とみられます。そうであれば日経平均は、10 月～11 月に 35,247 円(9/9 安値)を下回り、8 月の「一番底」に次ぐ「二番底」を形成するでしょう。



【時間足 エリオット波動分析】

短期的な日経平均の見方には、以下の「メインシナリオ」と「サブシナリオ」があります。

【メインシナリオ】 35,247 円を下回り、「二番底」を形成

7 月高値以来の第(4)波は[トライアングル(A-B-C-D-E)]を形成中です。

31,156 円(8/5 安値)からの B 波((a)-(b)-(c))によるリバウンドは 40,257 円(10/15 高値)で終わり—

②波と③波はほぼ 1:0.618 [計算値 40,145 円]でした—そこから C 波((a)-(b)-(c))による下げが進行中です。C 波は 35,247 円を下回り、10 月～11 月に「二番底」を付けるとみられます。37,651 円を割れることで、当シナリオの現実味は一層強まります。

【サブシナリオ】 第(5)波入り～年内にも高値更新へ

31,156 円(8/5 安値)以来、第(5)波による強気相場が進行中です。40,257 円を上抜くと(日足分析で書いた)複数の弱気パターンが解消され、上値追いが期待できるでしょう。

この見方によれば、35,247 円(9/9 安値)以来の上昇は第(5)波-第 3 波に相当し、それによって年内にも 42,426 円を上回り高値更新の可能性があります。

NYダウ



【日足 エリオット波動分析】

22 年 10 月安値(28,660ドル)以来の上昇は(B)波とカウントされ、(B)波のパターンは[ダブル・ジグザグ(W-X-Y)]を想定しています。

23 年 10 月安値(32,327ドル)からの Y 波は [ジグザグ(a)-(b)-(c)]編成となります。

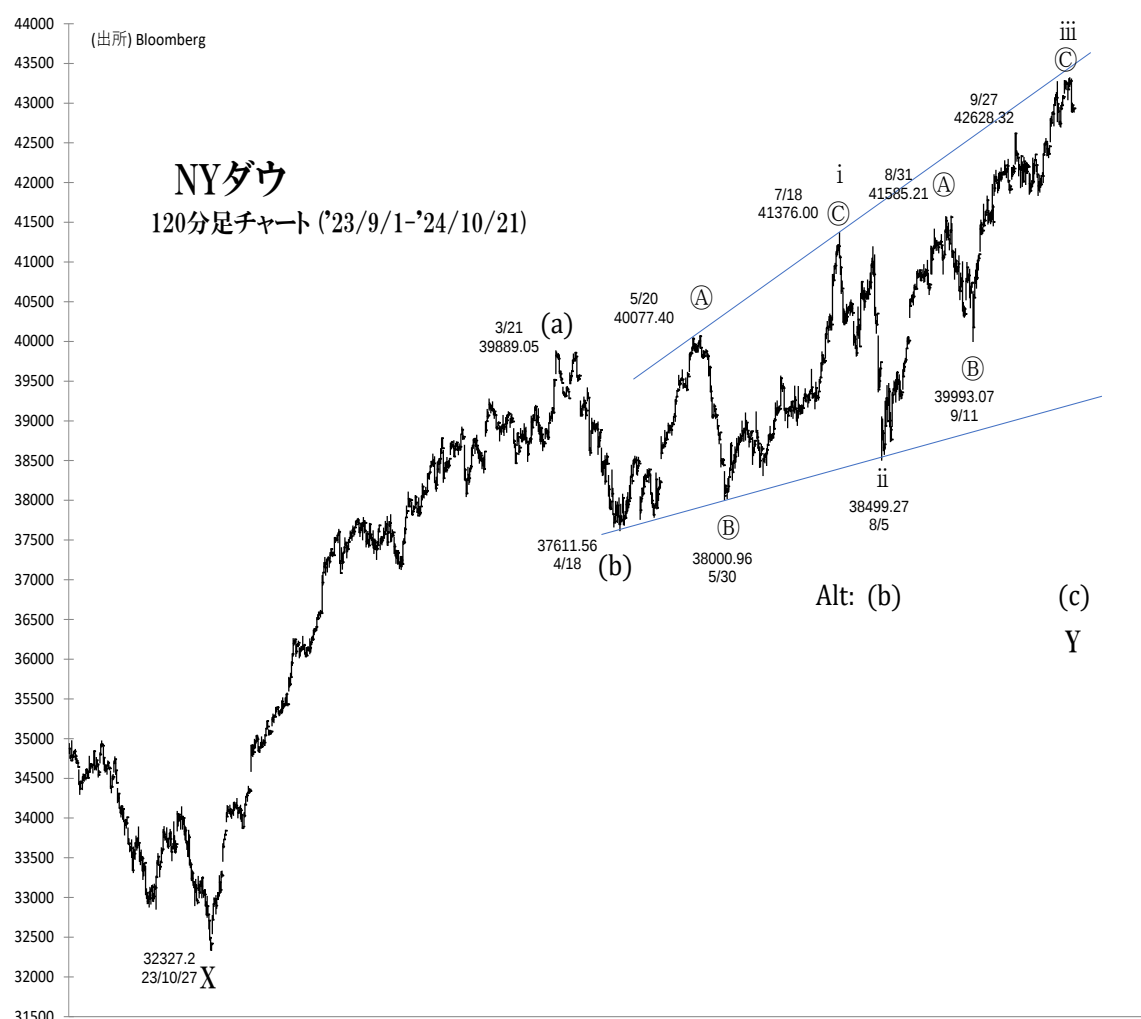
さらに 37,611ドル(4/18 安値)からの上昇は Y 波中(c)波であり、この(c)波を筆者は、上昇局面の最後に現れる[(エクспанディング)ダイアゴナル]とみています。この見方によれば、近いうちに(c)-iv 波の下落が始まる見通しです。

(オルタナティブ・カウント)

32,327ドル(23 年 10 月安値)⇒39,889ドル(3/21 高値)・・・(a)波

39,889ドル⇒38,499ドル(8/5 安値)・・・(b)波

38,499ドルからは(c)波による上昇です。この見方によると Y 波の天井は既に付けたか付けつつあり、X 波による下落局面が控えていることになります。



【時間足 エリオット波動分析】

23 年 10 月安値・32,327ドルからの Y 波は、(a)–(b)–(c)[ジグザグ]編成となります。

37,611ドル(4/18 安値)を(c)波の起点とすると、(c)波は[(エクспанディング)ダイアゴナル]を形成中です。38,499ドル(8/5 安値)からは(c)–iii波に位置付けられ、その上値は5月と7月の高値同士を通るレジスタンスラインを越えない程度でしょう。同ラインは今週 43,648ドルに位置しますが、それは直近高値 43,325ドル(10/18)からほんの少し離れているに過ぎません。

一方 38,499ドル(8/5 安値)を(c)波起点に置いてみると、(c)波はこれまでのところ五波構成となっており、(c)波完了の条件のひとつを備えています。

いずれにしても、NY ダウは近いうちに、調整局面に入る可能性が高い、とみています。

ナスダック



【週足 エリオット波動分析】

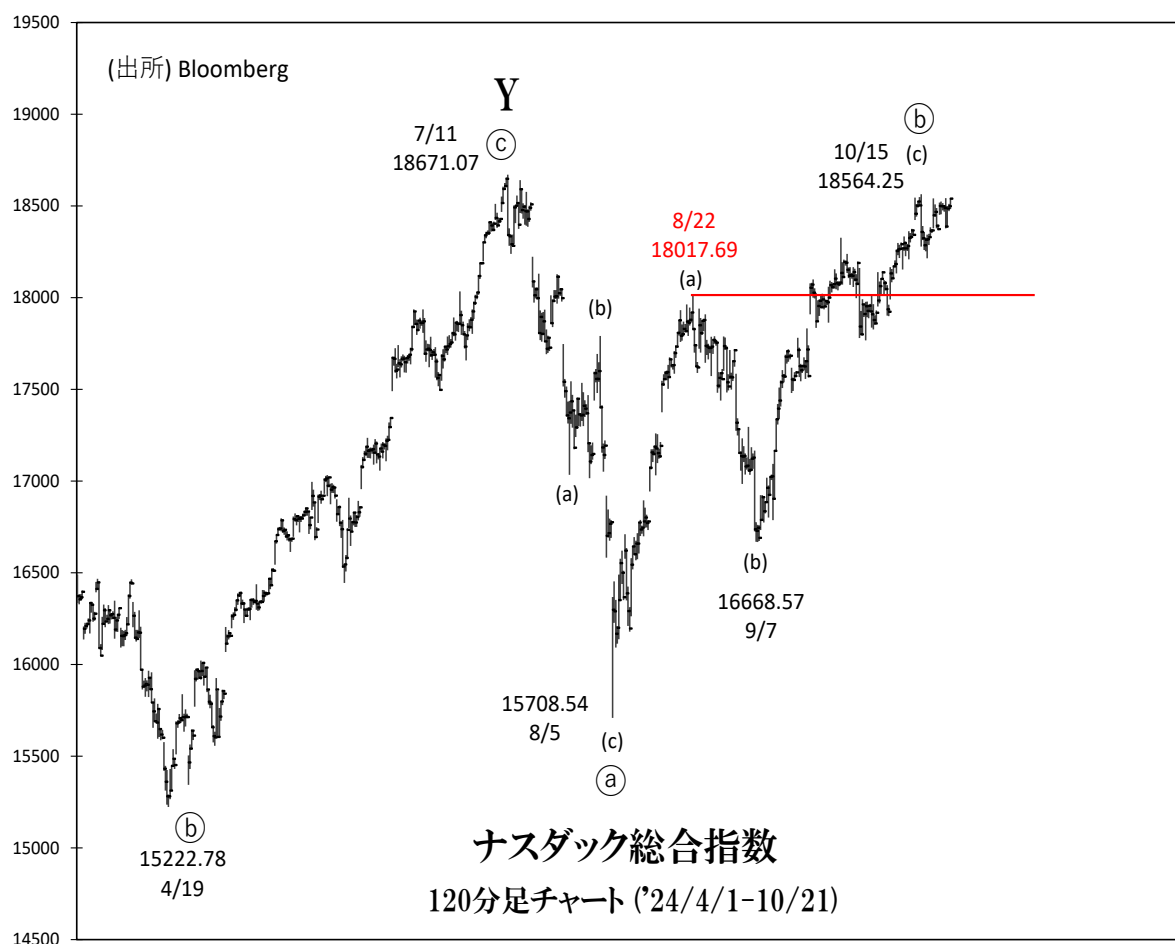
22 年 12 月安値(10,207)以来、(B)波による上昇が進行中です。この(B)波は[トリプル・ジグザグ(W-X-Y-X-Z)]を形成し、25 年まで続くでしょう。

18,671(7/11 高値)より、X 波による調整が進行中とみられます。X 波は[トライアングル]か、[フラット]を形成中と思われます。8 月安値からは X 波中⑥波のリバウンドに当たり、それは終わったか終わりつつあります。

⑥波終了後は⑦波による下落となりますが、この下落によっても、23 年 10 月安値(12,543)と 24 年 8 月安値(15,708)を通る、上昇サポートライン※は維持されると思われます。

※10 月第 4 週(10/21～10/25)のサポートライン水準…[\[16,562\]](#)

その反面、サポートラインを終値で明確に下抜くと、18,671(7/11 高値)から既に(C)波による下落トレンドに入っている、という見方が台頭し、ナスダックは中期的に[12,547]を目指す可能性があります。



【時間足 エリオット波動分析】

7 月高値からの X 波は[フラット]か、あるいは[トライアングル](a-b-c-d-e)を形成中と思われます。

15,708(8/5 安値)からは、三波構成による⑥波のリバウンドに位置付けられます。今後 18,017(8/22 高値)を割り込むと、⑥波完了および⑦波による下落に入った、という見方が強められます。

⑦波は当面、16,668(9/7 安値)を目指す展開となりそうです。

米ドル/円



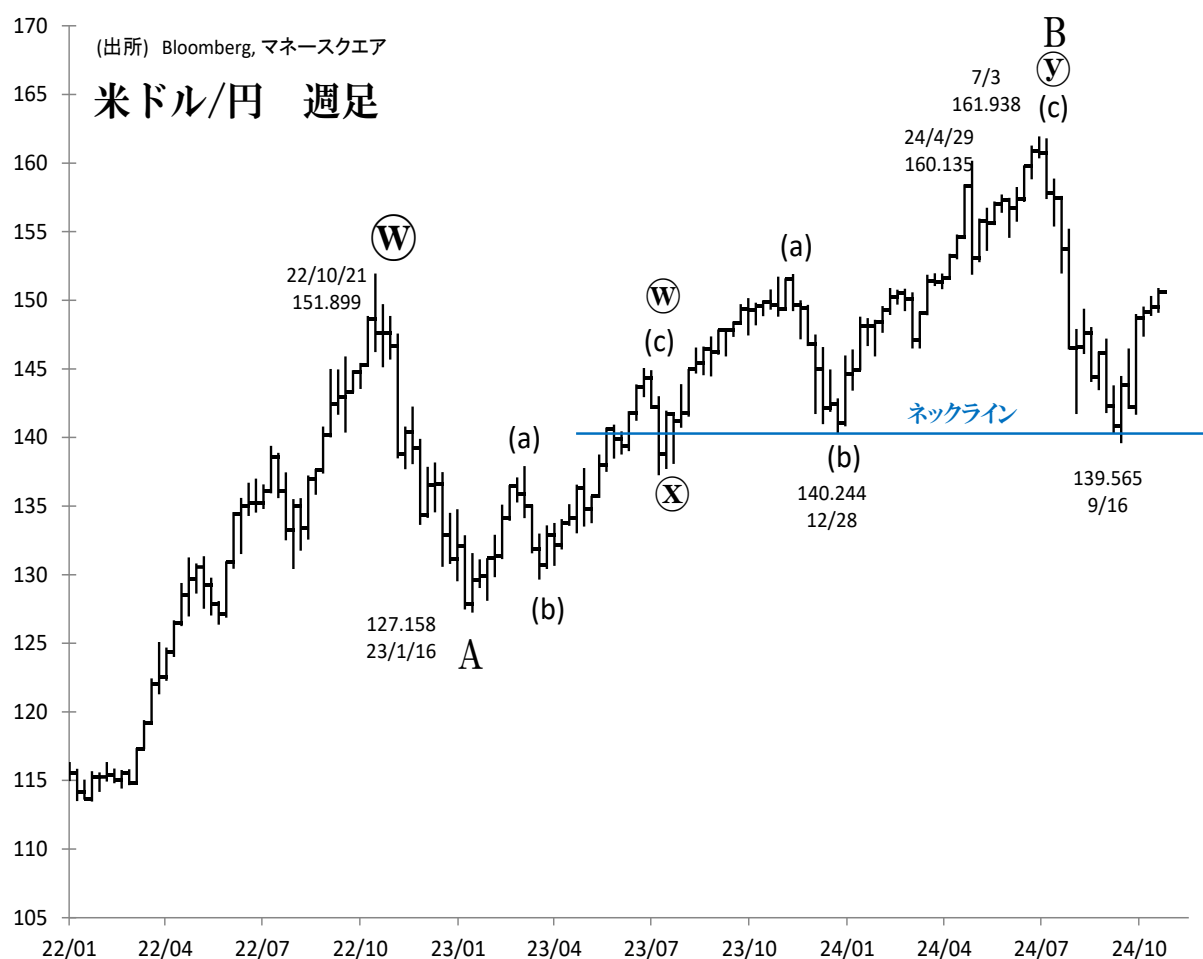
【月足・エリオット波動分析】

151.899 円(22/10/21)からは⊗波の「円高局面」が進行中です。この⊗波により米ドル/円(ドル/円)は、2028 年 4 月頃までレンジ相場を形成していくでしょう。161.938 円(7/3)は、15 年 6 月・125.860 円から 9 年目に付けた「8 年サイクル高値」とみられます。

22 年 10 月以来の⊗波が描くパターンとして大きくは、①[ランニング・トライアングル]、②[エクспанディッド・フラット]、これら二通りの可能性があります。なお①のもうひとつのパターンとして[ランニング・フラット]もあげられましょう。

①の場合、現行 C 波は A 波安値(127.158 円)を下回りません。C 波は三波で構成され、2011 年からの上昇チャネルのセンターライン(↑①)が強いサポートになるでしょう。10 月を通じ①の水準は 134.885 円です。

一方②の場合には、現行 C 波(五波構成)はチャネル下限(↑②)を目指し、より大きなドル安・円高になることが見込まれます。10 月中、②の水準は 115.260 円となっています。



【週足 エリオット波動分析】

161.938 円(7/3)からは、C 波によるドル安・円高です。ちなみに C 波の長さは A 波と同等か、フィボナッチ比率関係を反映します。

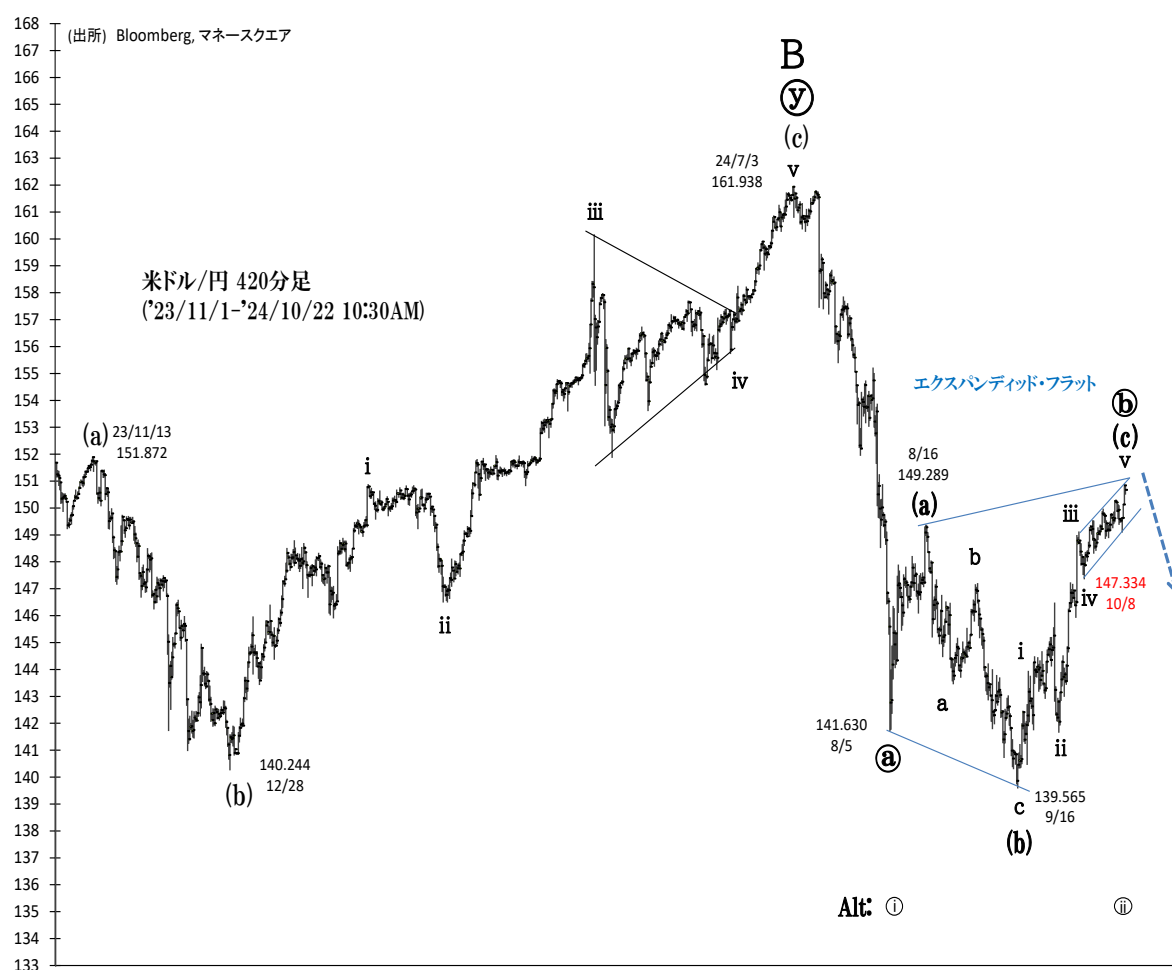
[137.197 円]…A 波の長さ(24.741 円)=C 波の長さ

[131.358 円]…A 波の長さ×1.236=C 波の長さ(30.579 円) (※)この時点でドル/円は月足サポート①を明確に下回り、以下の水準を目指す可能性が高まります。

[127.745 円]…A 波の長さ×1.382=C 波の長さ(34.192 円)

[121.907 円]…A 波の長さ×1.618=C 波の長さ(40.030 円)

ちなみに 23 年後半からのパターンが、140 円処をネックラインとする『ヘッド・アンド・ショルダーズ(三尊天井)』だとすると、近いうちに天井パターンにおける右肩トップを付け終わり、ドル/円は下落に転じるでしょう。さらにはネックライン割れをきっかけに、ドル安・円高の流れが強まると想定されます。



【時間足 エリオット波動分析】

141.630 円(8/5)から⑥波によるリバウンドが進行中ですが、そのパターンとして「エクспанディッド・フラット」を想定しています。

足元の水準は以下の節目に近づいており、⑥波はいつ終わってもおかしくありません。

[150.751 円]…161.938 円(7/3)→139.565 円(9/16)の半値戻り (10 月 21 日、この水準に達しました)

[151.784 円]…④波によるドル安・円高の半値戻り

[151.957 円]…③波の長さが②波の 1.618 倍になる水準

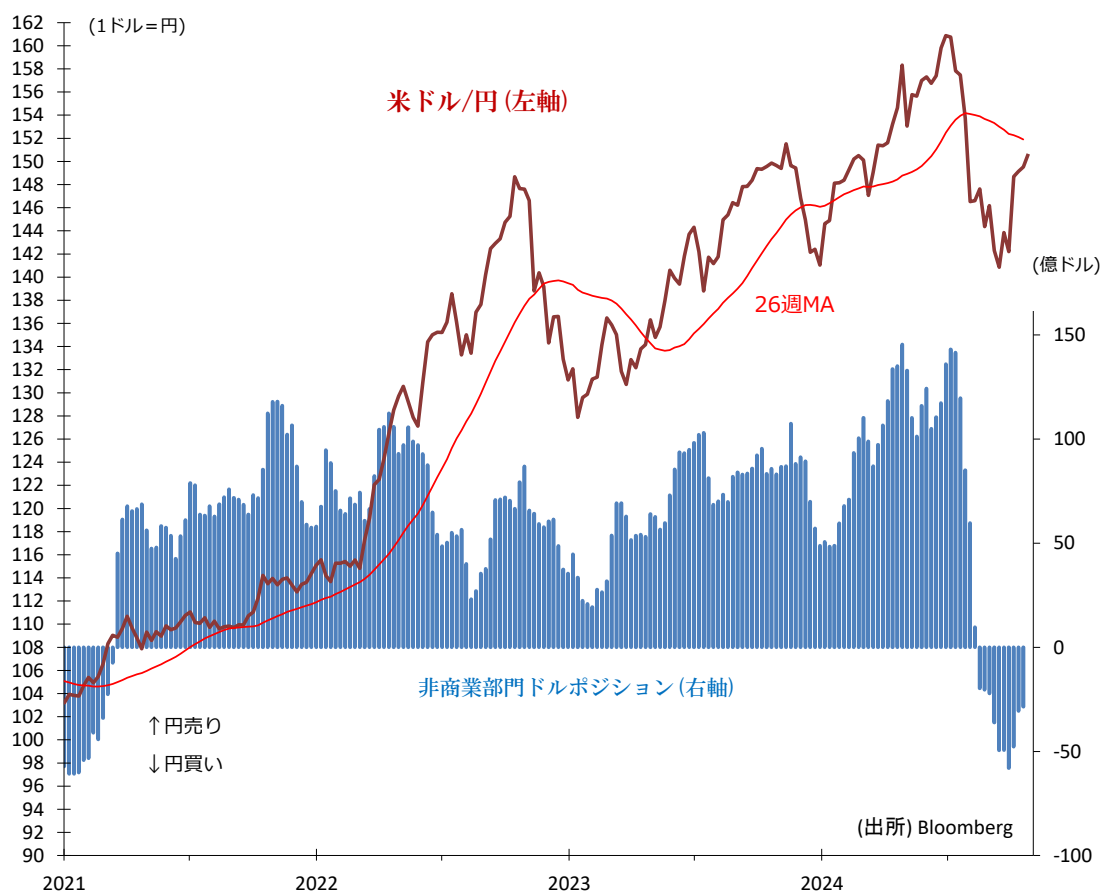
⑥波完了後には③波のドル安・円高基調が続くとみられ、それはまず[137.197 円]を試すでしょう。

円買いポジションは 3 週続けて縮小

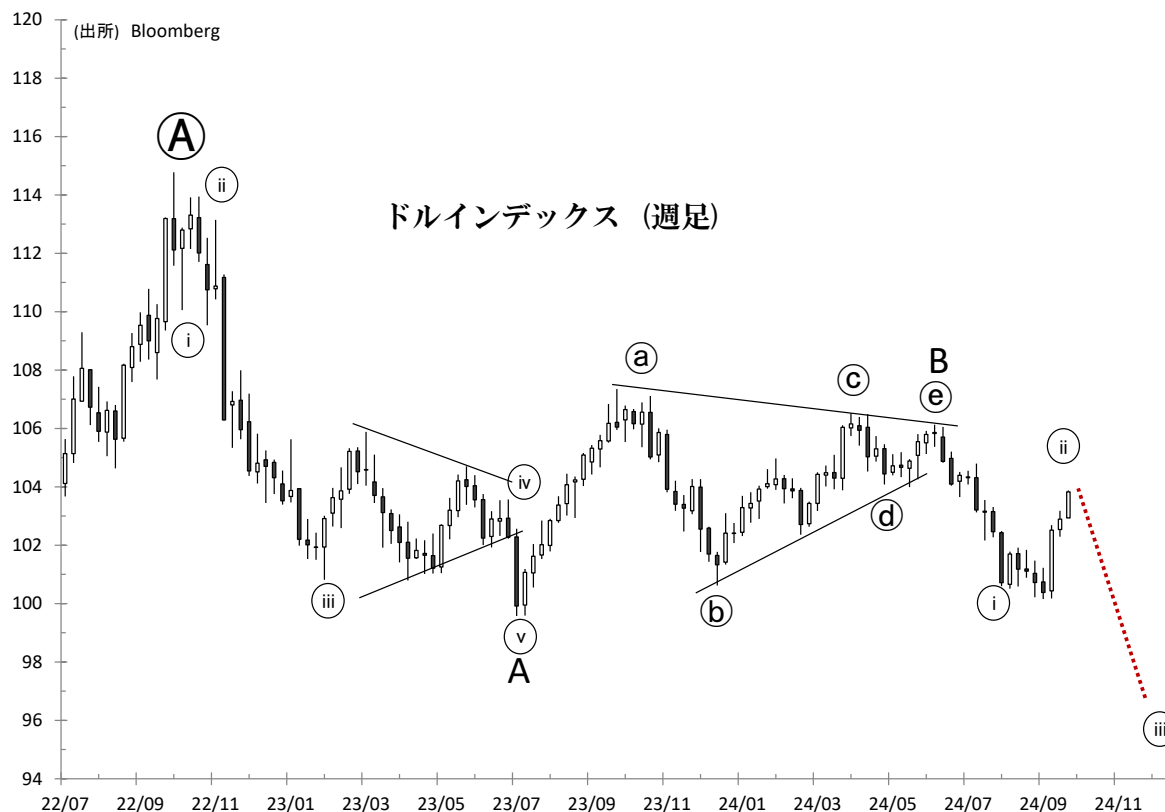
IMM 通貨先物市場での非商業部門(投機筋&ヘッジファンド)による円買い持ちポジションは、10 月 15 日時点で 3.41 万枚(28.5 億ドル)と 3 週連続で縮小しました。

9 月 24 日時点に比べ買い持ちは半分近くに減少しました。(石破ショックによる)短期的な円高を見込んだポジションは、ある程度解消された模様です。

もっとも、現在の円買い持ちが円売り持ちに替わるには、今後ドル/円が 26 週 MA(151.910 円)を
— 投機筋にとってドル/円強弱感の目安 — 明確に上回ることが必要です。



ドルインデックス (ドル指数)



【週足 エリオット波動分析】

22 年 9 月高値(114.778)以来、ドルインデックス(ドル指数)は③波による下落局面にあります。③波は三波構成(A-B-C)です。

106.130(6/26)以来、C 波によるドル安基調が進行中です。この C 波は五波構成(マル i~マル v)となります。

足元は C 波中マル ii 波によるリバウンドとみられますが、水準的にはフィボナッチ・レジスタンス(103.900 処)に達しています。**ドル高は目先の終わってもおかしくありません。**

近々マル iii 波によるドル安が始まるとみられ、それは 23 年安値(99.578)を下抜くでしょう。

③波は最終的に、[90.930]、[89.209]を試す可能性があります。前者は A 波と C 波が等しく下がる水準、後者は 21 年 1 月に付けた、①波のレサラー・ディグリー(4)波安値です。

※当レポートは、情報提供を目的としたものであり、特定の商品の推奨あるいは特定の取引の勧誘を目的としたものではありません。

※当レポートに記載する相場見通しや売買戦略は、ファンダメンタル分析やテクニカル分析などを用いた執筆者個人の判断に基づくものであり、予告なく変更になる場合があります。また、相場の行方を保証するものではありません。お取引はご自身で判断いただきますようお願いいたします。

※当レポートのデータ情報等は信頼できると思われる各種情報源から入手したものです。当社はその正確性・安全性等を保証するものではありません。

※相場の状況により、当社のレートとレポート内のレートが異なる場合があります。

当社サービスに関する注意事項

・取引開始にあたっては契約締結前書面をよくお読みになり、リスク・取引等の内容をご理解いただいた上で、ご自身の判断にてお願いいたします。

・当社の店頭外国為替証拠金取引、店頭 CFD 取引および取引所株価指数証拠金取引は、元本および収益が保証されているものではありません。また、取引総代金に比較して少額の資金で取引を行うため、取引の対象となる金融商品の価格変動により、多額の利益となることもあります。お客様が差し入れた証拠金を上回る損失が生じるおそれもあります。また、各金融市場の閉鎖等、不可抗力と認められる事由により店頭外国為替証拠金取引、店頭 CFD 取引および取引所株価指数証拠金取引が不能となるおそれがあります。

・店頭外国為替証拠金取引、店頭 CFD 取引における取引手数料は無料です。

・取引所株価指数証拠金取引における委託手数料は注文が成立した日の取引終了後の値洗い処理終了時に証拠金預託額より、新規および決済取引のそれぞれに徴収いたします。手数料額は、通常 1 枚あたり片道 303 円(税込)、NY ダウリセット付証拠金取引および NASDAQ100 リセット付証拠金取引は 1 枚あたり片道 33 円(税込)です(ただし、建玉整理における委託手数料は無料です)。

・当社が提示するレートには、買値と売値に差(スプレッド)があります。流動性が低くなる場合や、天変地異または戦争等による相場の急激な変動が生じた場合、スプレッドが広がる場合があります。

・店頭外国為替証拠金取引に必要な証拠金額は、個人のお客様の場合、取引総代金の 4%以上です。法人のお客様の場合、取引総代金に、金融先物取引業協会が算出した通貨ペアごとの証拠金率(為替リスク想定比率)を基に当社が算出した証拠金率を乗じた金額となります。為替リスク想定比率は、金融商品取引業等に関する内閣府令第 117 条第 27 項第 1 号に規定される定量的計算モデルを用い算出します。なお、証拠金率(為替リスク想定比率)は変動いたします。店頭 CFD 取引に必要な証拠金額は、取引総代金の 10%です。取引所株価指数証拠金取引に必要な証拠金額は、商品ごとに当社が定める 1 枚あたりの必要証拠金の額に建玉数量を乗じる一律方式により計算されますが、1 枚あたりの必要証拠金額は変動いたします。

金融商品取引業 関東財務局長(金商)第 2797 号

【加入協会】日本証券業協会 一般社団法人 金融先物取引業協会
株式会社マネースクエア
